

岡山県感染症週報 2021年第14週 (4月5日～4月11日)

◆2021年 第14週 (4/5～4/11)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第13週 2類感染症 結核 1名(90代 女)
- 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(70代 男)
- 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(60代 男)
- 梅毒 1名(20代 女)
- 第14週 2類感染症 結核 3名(30代 女 1名、80代 女 2名)
- 4類感染症 重症熱性血小板減少症候群 1名(70代 男)
- レジオネラ症 3名(70代 男 2名、90代 女 1名)
- 5類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名(80代 女)
- 新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 198名

ソーシャルディスタンス
・マスク・手洗い!



©岡山県「ももっち」

第14週 新型コロナウイルス感染症 年齢階級別・性別発生状況一覧表

	0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	年代非公表
男	1	2	27	16	12	12	6	6	4		1
女		3	49	10	8	13	9	3	4	1	1
性別非公表											10

【第15週 速報】

○新型コロナウイルス感染症 116名の発生がありました。詳細については「今週の注目感染症」をご覧ください。

1. **新型コロナウイルス感染症**は、2021年第14週に198名の報告があり(第13週は110名)、県内で新型コロナウイルス感染症初発例が確認された2020年第12週から2021年第14週までの累計報告数が2,953名となっています。全国や岡山県の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
2. **重症熱性血小板減少症候群(SFTS)**は、第14週に1名の報告がありました。SFTSは、病原体(SFTSウイルス)を保有するマダニに咬まれることで感染します。ダニに咬まれないための予防対策等についてはコラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう!」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	⬆	★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	⬆	★
手足口病	⬆	★	伝染性紅斑	⬆	
突発性発疹	⬆	★★	ヘルパンギーナ	⬆	★
流行性耳下腺炎	⬆	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ⬆：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ⬆：減少 ⬆：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★新型コロナウイルス感染症

●新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症は、現在世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。日本では、2020年1月15日に1例目の感染者が確認されました。感染経路は、飛沫感染が主体と考えられますが、換気の悪い環境であれば、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させると考えられています（WHOは、5分間の会話で1回の咳と同程度の飛沫（約3,000個）が飛ぶと報告）。現在、ワクチンが開発され、予防接種が進められています。（[新型コロナウイルスワクチン接種に関する情報提供（岡山県）](#)）

●症状

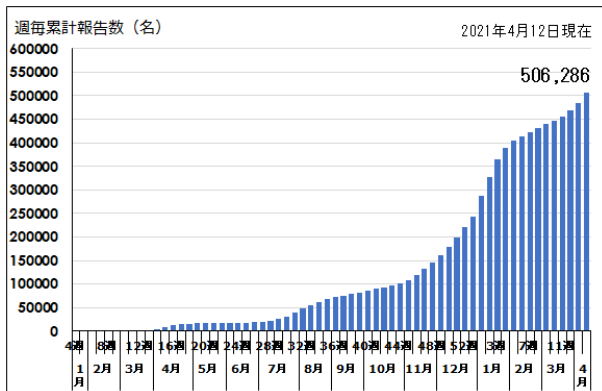
1～14日（通常5日程度）の潜伏期間の後に、主に発熱、咳、倦怠感等の風邪のような症状が出現しますが、下痢、嗅覚・味覚障害などを呈する場合があります。初期症状に続き、肺炎症状の増悪を示す場合があります。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。他方、感染しても息苦しさなどを認めない比較的軽症の例や無症状の方も多くみられます。

●発生状況

・全国

2021年4月15日0時現在まで、国内感染者は累計で516,121名、国内死亡者は9,500名、退院または療養解除となった者は473,570名となっています（厚生労働省ホームページより）。

3月中旬以降の新規感染者数の増加に伴い、3月下旬以降重症者数も増加が継続しています。全国的に変異株の報告も増加し、関西をはじめ、東京都、愛知県など多くの自治体で変異株への置き換わりが進んでいます。ステージⅢ※に相当する状況などと判断された区域では、「まん延防止等重点措置」が実施されています。20-30代の感染者の増加が中心となって感染が拡大している地域が多く、今後高齢者層への感染の波及が進むと、重症者数のさらなる増加につながる可能性があります。3密となるような人が集まる機会を避けるなど、感染予防の取組みを続ける必要があります。（参考：[都道府県別の変異株（ゲノム解析）確認数について（厚生労働省）](#)）



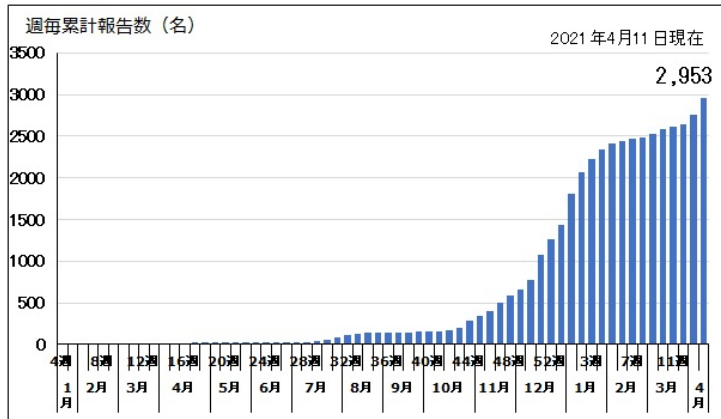
・岡山県(最新情報)

2021年4月15日現在までで、岡山県の感染者は累計で3,069名（男性1,505名、女性1,368名、性別非公表196名）、死亡者は35名となっています。複数の事業所でクラスターが発生しています。

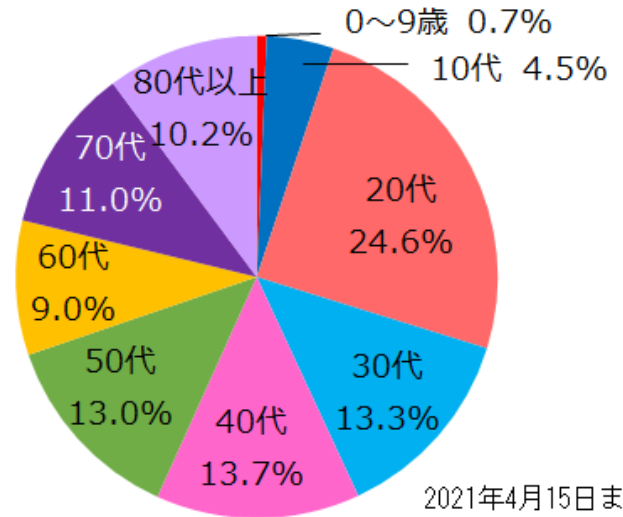
岡山県の状況、感染予防の方法などの詳細は、[新型コロナウイルス感染症について（岡山県）](#)をご覧ください。

第15週（速報値） 新型コロナウイルス感染症 116名 年齢階級別・性別発生状況一覧表

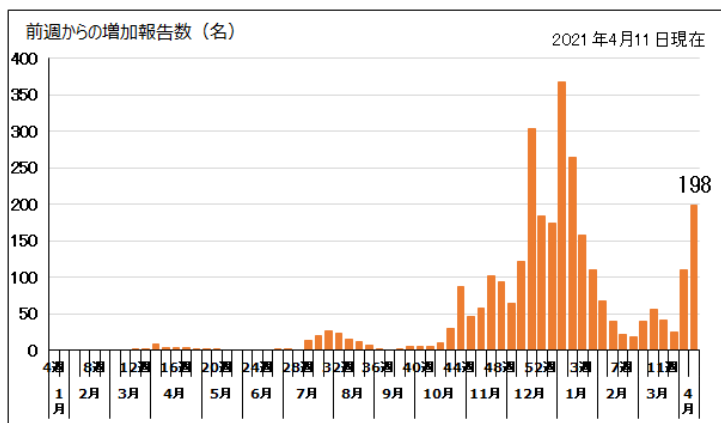
	0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	年代非公表
男	1	9	24	11	7	3	6	4	1	1	
女		3	12	6	2	6	3	8	3	1	
性別非公表					1						4



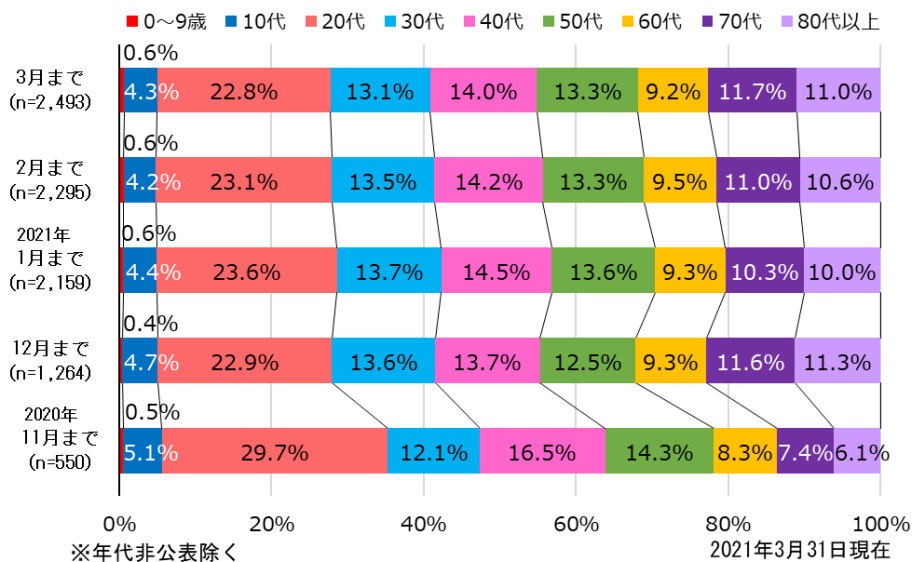
岡山県 週毎累計 (2021年第14週まで)



岡山県 年齢階級別累計割合
(2021年4月15日まで)



岡山県 週毎増加報告数 (2021年第14週まで)



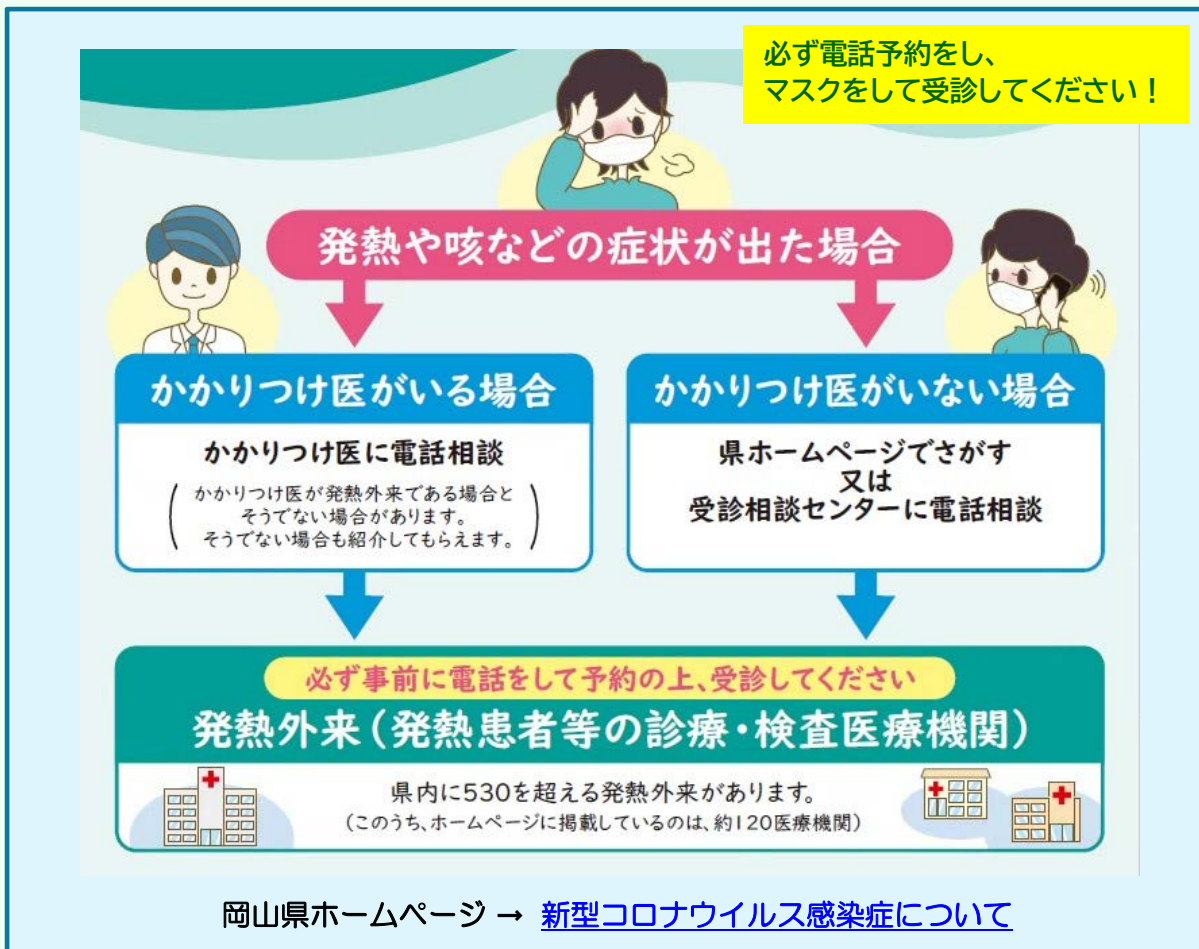
岡山県 年齢階級別累計割合(各月まで、2020年11月~2021年3月)

【発熱や風邪のときは「かかりつけ医」等にご相談を！】

新型コロナウイルス感染症は、発熱や咳などで始まることが多く、初期症状が一般的な風邪と似ています。

こうした症状がある場合は、無理をして学校や職場等に行かないようにして、「発熱外来」で相談・診療・検査をしてもらいましょう。

なお、医療機関を受診する際は、必ず事前に電話予約をし、受診時はマスクを着用してください。



★予防接種を受けて、重い感染症にかかるリスクから子どもを守りましょう！★

現在、新型コロナウイルス感染症の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

予防接種のタイミングは、感染症にかかりやすい年齢などをもとに決められています。

子どもの予防接種を遅らせると、必要な免疫をつけることができなくなり、予防接種で防ぐことのできる重い感染症にかかる危険性が高まります。

特に生後2か月から受け始めることは、母親からもらった免疫が減っていくときに、乳児がかかりやすい百日咳、細菌性髄膜炎などの感染症から乳児を守るために、とても重要です。

医療機関では、予防接種を行う時間や場所に配慮するなど、

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に努めています。

子どもの予防接種は決して「不要不急」ではありません。

まだ接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。



© 岡山県「ももっち・うらっち」

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう!

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群(CRS)※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます](#) (岡山県健康推進課)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています(2022年3月31日まで)。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

岡山県の2019年4月～2021年1月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、20.7%(12月までは20.3%)と未だに低い状況です! CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう!

[風しんの追加的対策について\(厚生労働省\)](#)

[風疹に関する疫学情報\(国立感染症研究所\)](#)

[“風疹ゼロ”プロジェクト\(日本産婦人科医会\)](#)



© 岡山県「ももっち」

ダニが媒介する感染症に注意しましょう!

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)※**、**日本紅斑熱**、**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(ディートやイカリジンを含む)を噴霧するなどし、ダニに咬まれないようにしましょう。また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。体調不良の動物や野生動物への接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A](#) (厚生労働省)

⇒ [日本紅斑熱とは](#) (国立感染症研究所)

⇒ [ツツガムシ病とは](#) (国立感染症研究所)

⇒ [マダニ対策、今できること](#) (国立感染症研究所)



吸血後の
フタトゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 画像



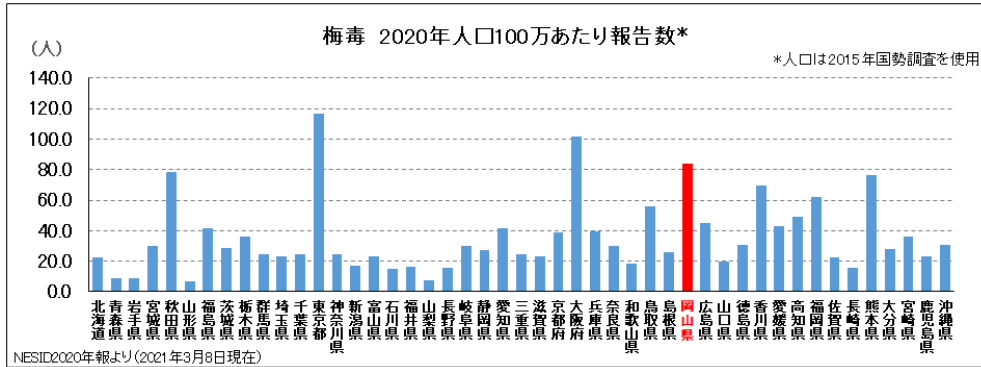
梅毒（性感染症）に

気をつけましょう！

梅毒トレポネーマの電子顕微鏡写真
(国立感染症研究所 HP より)

岡山県は梅毒の患者報告数が多く、2020年の人口100万あたりの報告数が、2019年に引き続き全国3位となりました。今年も第14週までに25名が報告されています。全国的にも、近年患者数は増加傾向を示しており、注意が必要な状況です。

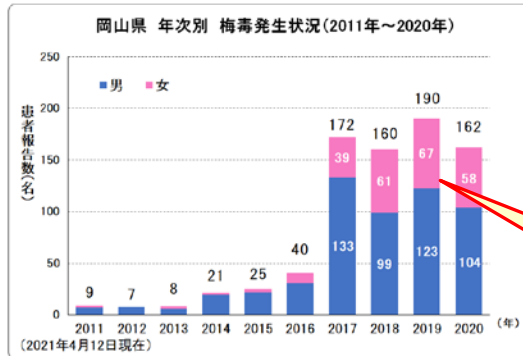
☆梅毒等性感染症の症状・診断等の情報はこちら ⇒ [性感染症（国立感染症研究所）](#)



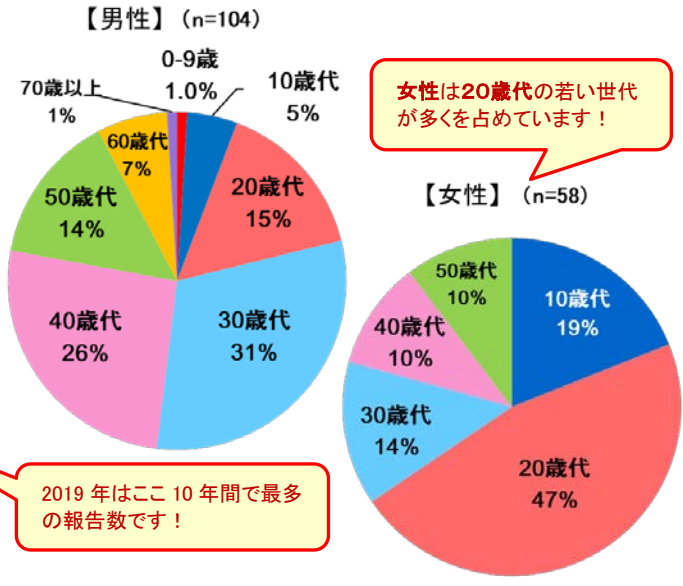
2020年の人口100万あたり報告数
上位10位の自治体

順位	自治体	患者報告数	人口100万あたり報告数
1	東京都	1,575	116.55
2	大阪府	902	101.93
3	岡山県	162	84.24
4	秋田県	80	78.24
5	熊本県	136	76.16
6	香川県	68	69.63
7	福岡県	317	62.13
8	鳥取県	32	55.74
9	高知県	36	49.46
10	広島県	129	45.28

2021年3月8日現在



岡山県 性別・年齢階級別発生状況 (2020年) 2021年4月12日現在



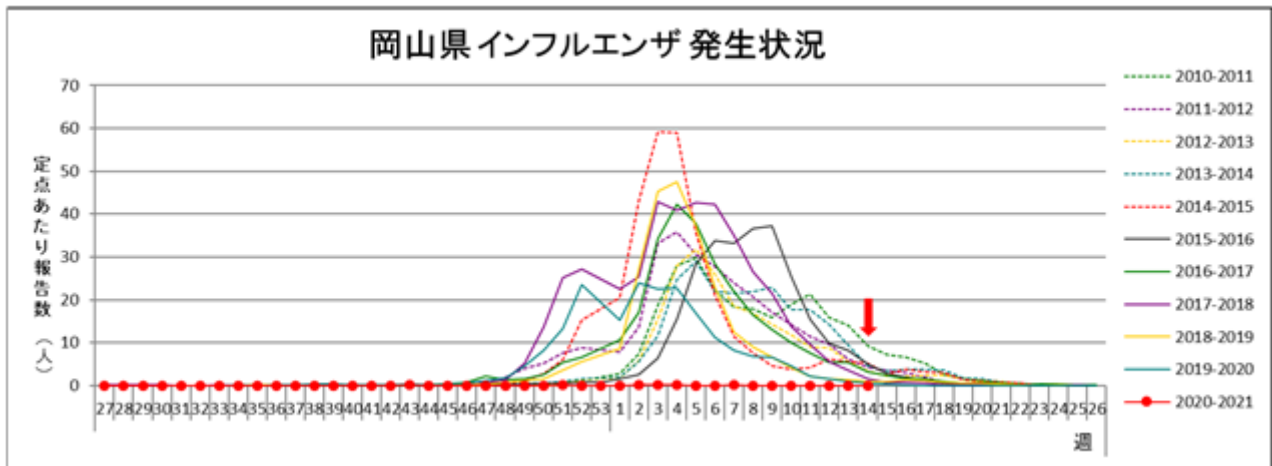
岡山県の保健所・支所では梅毒等の性感染症検査を無料・匿名で受けることができます！

- *岡山県の保健所(岡山市・倉敷市を除く)では、梅毒以外にも HIV・性器クラミジア・B 型肝炎・C 型肝炎の検査も同時に受けることができます。(岡山市・倉敷市はこちら)
- *通常検査では1週間後、迅速検査では1時間後に結果をお知らせしています。
- *確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3か月経過後に検査することをおすすめします。
- *電話での事前予約が必要です。
- *新型コロナウイルスの影響で中止となる場合があります。

○性感染症等検査の日時などはこちら ⇒ [梅毒対策（岡山県健康推進課）](#)

岡山県 インフルエンザ発生状況

(2020/21 年シーズンのまとめ)



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

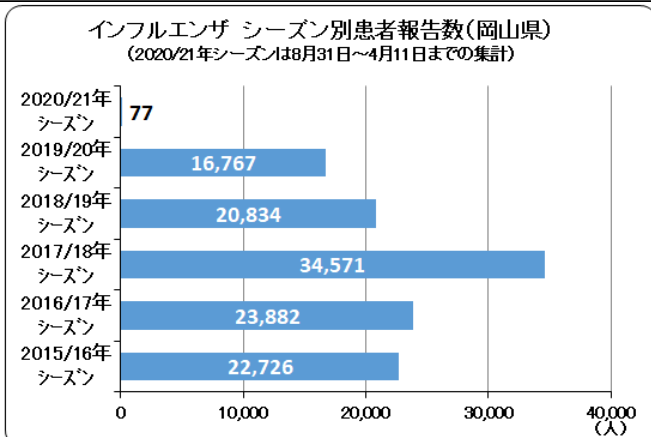
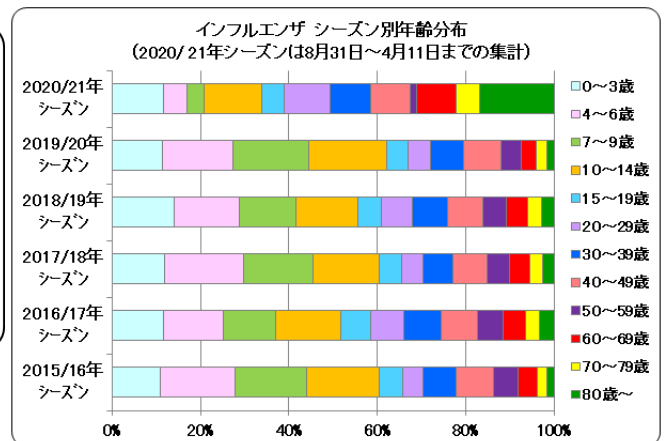
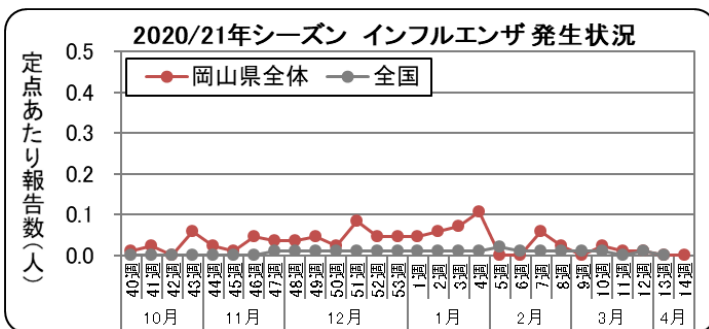
2020/21 年シーズン(2020/8/31~2021/9/5)のうち、2021 年 4 月 11 日までの岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました(県内 84 定点医療機関報告)。

1. 患者報告数、年齢別発生状況

今シーズン、岡山県の患者報告数は、77 人であり、感染症発生動向調査開始以降のシーズン(2000/01 年シーズン以降)で最も少ない報告数となりました。2020 年第 40 週(9/28~10/4)に初めての患者が報告されてから、散発的に患者が発生しました。最も報告患者数が多かったのは、2021 年第 4 週(1/25~1/31)の 9 人(定点あたり 0.11 人)でした。今シーズンは、注意報発令基準である定点あたり 1.00 人を上回ることがなく、岡山県でインフルエンザ注意報の制度が開始された 2005/06 年シーズン以降で、初めて注意報が発令されませんでした。地域別では、美作地域の 62 人が最も多く、次いで倉敷市(6 人)、岡山市(4 人)、備中地域(3 人)、備北及び真庭地域(1 人)、備前地域(0 人)でした。

全国では、2021 年第 5 週(2/1~2/7)に今シーズンの最多の報告数(98 人(定点あたり 0.02 人))となりました。

岡山県の年齢階級別は、80 歳以上(16.9%)、10~14 歳(13.0%)、0~3 歳(11.7%)、20~29 歳(10.4%)の順で多くなりました。



※インフルエンザシーズンは、第 36 週から翌年第 35 週までを 1 シーズンとして集計しています。

2. インフルエンザウイルス検出状況

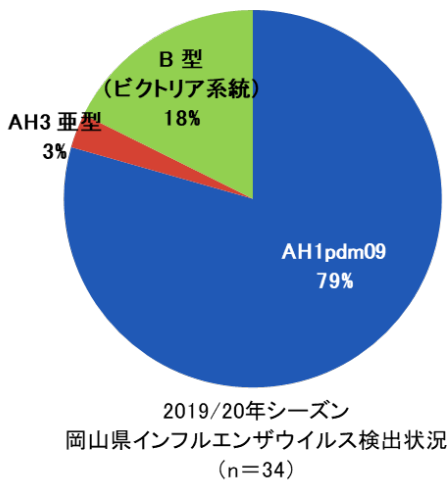
今シーズンのうち、2021年4月11日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。また、全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、5株(AH1pdm09 2株、AH3亜型 2株、C型 1株)でした。

[インフルエンザウイルス分離検出状況（国立感染症研究所）](#)

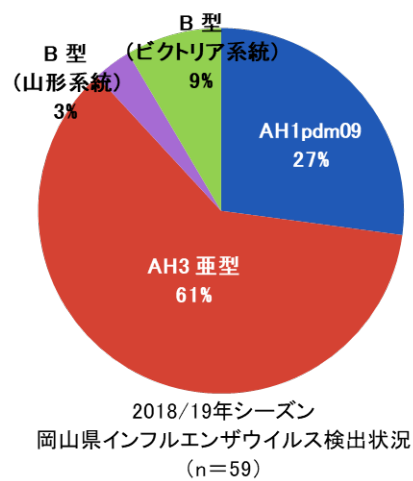
<参考として昨シーズン等のデータをお示しします>

岡山県はAH1pdm09が主流でした。全国はAH1pdm09が主流となり、2月中旬以降はB型(ビクトリア系統)が主流となりました(2021年4月12日までの検出状況)。

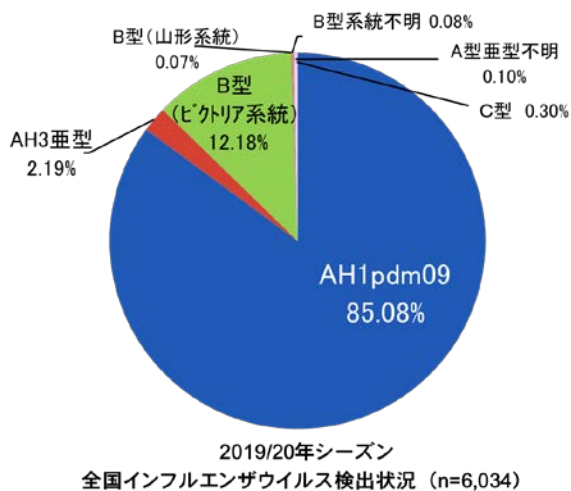
【岡山県】 【2019/20年シーズン】



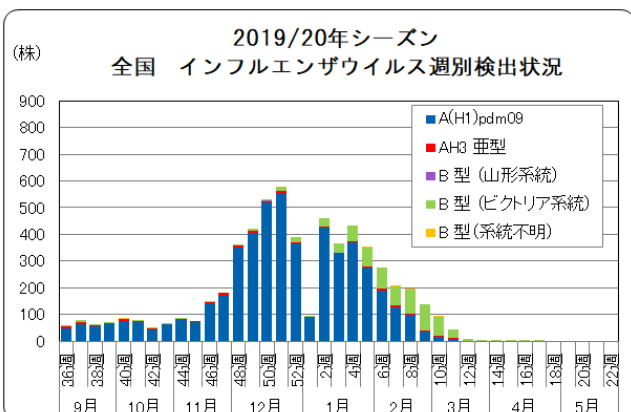
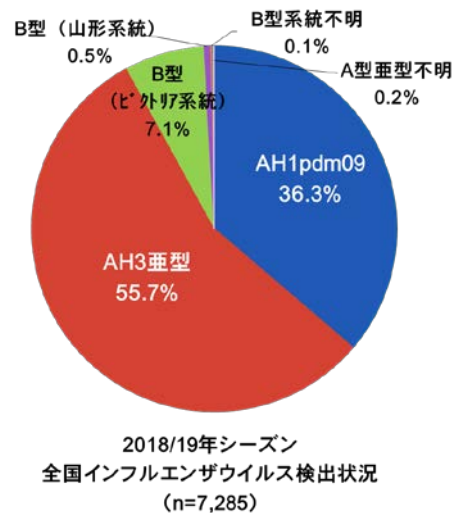
【2018/19年シーズン】



【全国】 【2019/20年シーズン】



【2018/19年シーズン】



3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズンのうち、2021年4月11日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業はありませんでした。全国では、2021年3月12日現在(今シーズンの最終報告)で、学級閉鎖3例、学年閉鎖3例が報告されました。

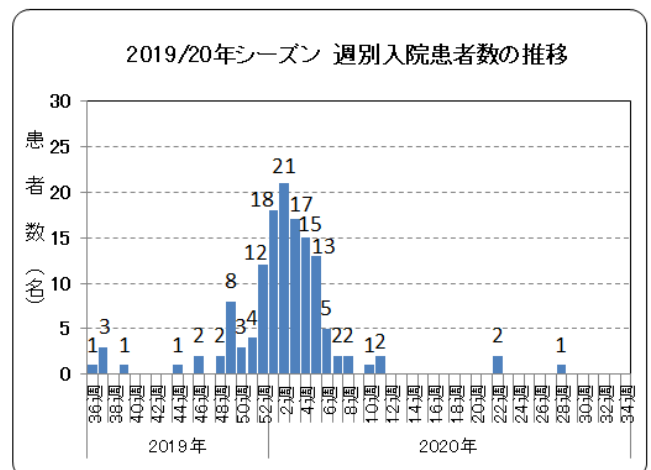
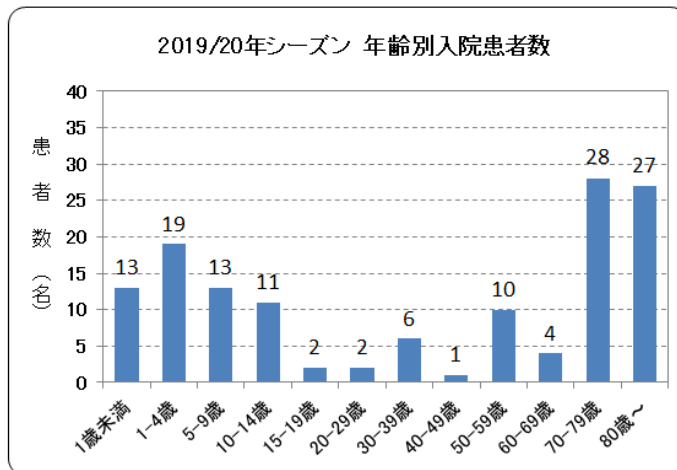
4. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点5医療機関による報告)

今シーズンのうち、2021年4月11日までのインフルエンザによる入院患者数は2名(2020年第52週に30歳代及び2021年第8週に80歳代以上、各1名ずつ)であり、昨シーズン(136名)から大幅に減少しました。全国では、2021年3月24日現在で、118名の入院患者が報告されました(2018/19年シーズン:20,185名、2019/20年シーズン:12,982名)。

また、今シーズンのインフルエンザ脳症(第5類感染症の全数把握対象疾患である急性脳炎の届出において、病原体としてインフルエンザウイルスの記載があるもの)の報告は、岡山県ではありませんでした(2018/19年シーズン:3名、2019/20年シーズン:5名)。全国でも、インフルエンザ脳症の報告はありませんでした(2018/19年シーズン:231名、2019/20年シーズン:251名)。

<参考として昨シーズンのデータをお示しします>

【岡山県】



参考文献

国立感染症研究所:IDWR 2021年第11号<注目すべき感染症>直近の新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザの状況(2021年3月26日現在)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2487-idsc/idwr-topic/10272-idwrc-2111.html>

保健所別報告患者数 2021年 14週(定点把握)

(2021/04/05～2021/04/11)

2021年4月15日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	0.09	2	0.14	-	-	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	0.37	7	0.50	5	0.45	1	0.10	2	0.29	3	0.75	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	228	4.22	63	4.50	69	6.27	31	3.10	41	5.86	13	3.25	-	-	11	1.83
水痘	6	0.11	-	-	-	-	-	-	5	0.71	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	0.35	11	0.79	2	0.18	1	0.10	4	0.57	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2021年 14週(発生レベル設定疾患)

(2021/04/05～2021/04/11)

2021年4月15日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	0.09	2	0.14	-	-	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	0.37	7	0.50	5	0.45	1	0.10	2	0.29	3	0.75	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	228	4.22	63	4.50	69	6.27	31	3.10	41	5.86	13	3.25	-	-	11	1.83
水痘	6	0.11	-	-	-	-	-	-	5	0.71	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2021年 第14週 2021/04/05～2021/04/11)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	5	-	-	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	-	-	2	5	1	1	1	2	2	1	-	3	-	2
感染性胃腸炎	228	3	17	62	36	20	16	11	6	9	4	3	7	5	29
水痘	6	1	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
手足口病	3	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	1	2	14	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

2021年 14週

分類	疾病名	2021		2020	疾病名	2021			2020			
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	63	252				
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-				
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-								
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-				
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	1				4 103
四類	E型肝炎	-	2	4	ウエストナイル熱	-	-	-				-
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-				-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-				-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-				-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-				-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-				1 1 7
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-				-
	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-				-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	11				-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-				-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-				-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-				-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-				-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-				3 14 79
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-				-
	五類	アメーバ赤痢	-	2	17	ウイルス性肝炎	-	1	10			
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	1	急性脳炎	-	3	6				-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	7				-
ジアルジア症		-	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	1				-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	5	12	水痘(入院例に限る。)	-	1	5				-
梅毒		-	25	162	播種性クリプトコックス症	-	-	2				-
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-				-
風しん		-	-	1	麻しん	-	-	-				-
※	新型コロナウイルス感染症	198	1,513	1,440								

※新型インフルエンザ等感染症

